

会員だより

地域科学部 2020 年度、富樫ゼミ卒業生の根崎怜司です。現在は岐阜のデザイン会社に勤めており、自治体や企業さんとのプロジェクトを担当しております。

この職業にしようと思ったきっかけは、地域科学部の4年間にあります。僕は恵那市出身です。恵那市近郊の地域では僕も含め同級生や幼なじみ、親戚が本当は地元で就職したいが、職種や給与の面で他地域に出て行き、そこで結婚・家を構えるという現状があります。その状態は好ましくないと考えています。そのため、入学当初から稼げる企業や地域が必要だと思っていました。しかし、ゼミや課外時間でお世話になった岐阜県内の地域の方たちとお話する機会がある中で、ただ単に稼ぐよりも、みんながわくわくして楽しいことがそれ以上に求められると感じました。

第21期生 根崎 怜司

実際に富樫教授も長良川おんぱく等を通じて、地域の方と Face to Face でコミュニケーションして、みんなが楽しんでいる姿を何度も間近で見て、自分も混ぜていただき楽しかった経験もあります。

そして今の仕事では、クリエイティブなことが求められている以上に、目の前の人やどうやって楽しんでもらえるのかということや、会社全体で意識して仕事をしている。

いずれは恵那市に帰郷し、みんながわくわくするようなコトやモノを生み出していきたいと思っています。



大学生時代 課外活動等をしたチーム (筆者は向かって左端)

2021年度 森の会役員

会長／浅井 彰子①
 副会長／浅野 善信① 都築 尚子①
 幹事長／後藤 祐治③
 幹事／伊藤 雅浩① 小澤和歌子① 眞鍋 陽子① 笠原 正博⑩ 平野 純里①
 藤井 敬子①① 野村 惇貴⑫ 小塩 里予⑭ 西野 公美⑭ 伊藤 未有⑮
 川脇沙也佳⑯ 田島 佳奈⑯
 会計／荒瀬 修三③ 岩田 茉奈⑯
 監査／祖父江利佳① 伊藤 健人③

森の会 会員数 2,644名
 (2021年4月1日現在)

(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

会員の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

そして、コロナ禍の厳しい環境での学びを経て、今春、ご卒業・ご修了された新正会員の皆さま、まことにおめでとうございます。直接お祝いを申し上げる機会が失われましたが、同窓会として心からお祝い申し上げます。2020年度の大学21期卒業、大学院19期修了の131人の皆さまを正会員としてとして同窓会にお迎えできて、大変嬉しく思います。

現在、森の会の正会員は総勢2,644人。岐阜大学の他学部の同窓会に比べますと小さな組織ではありますが、会員の皆さまの彩り豊かな活躍が自慢です。

昨年、森の会創立20周年を記念した行事は残念ながら開催できませんでした。今年のご案内のように、中村梧郎先生の講演会をオンラインで実施するように計画しています。ご無理のない範囲でご参加いただけますので、お申し込みをどうぞよろしくお願いいたします。10月10日にご一緒できることを楽しみにしています。

皆さま、お健やかに、そしてお気持ちは爽やかに過ごしてください。

集うことができる日が早く戻ってきますことを祈りつつ…。

森の会 会長 浅井 彰子

森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。連絡先等に変更があった場合は、メールにてご連絡ください。

連絡先

森の会 (岐阜大学地域科学部同窓会)

〒501-1193
 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内
 TEL : 058-293-3021 FAX : 058-293-3008
 E-mail : mori2001@gifu-u.ac.jp
 森の会ホームページ http://www.rs.gifu-u.ac.jp/alumni.html
 事務局業務日(月・水・金 9:00~15:00)



森の会
 メールアドレスに
 簡単にアクセス
 できます



森の会 MORINOKAI NEWS vol.19 ニュース19

2021年8月1日発行 編集・発行 / 森の仲間たち

I・N・D・E・X

- 先生からのメッセージ……………2~4
- 会員だより……………5~8
- 2020年度会計報告……………6
- 進路状況・基金のご協力とお願い……………7
- 役員紹介……………8

森の会設立20周年 記念講演会のご案内

2021年3月25日に森の会(地域科学部同窓会)は、設立20周年を迎えました。

これを記念し、中村梧郎氏の講演会をオンライン開催(Zoom配信)いたします。

たくさんの方のご参加をお待ちしています。

日 時 2021年10月10日(日) 14:00~16:00

講 師



中村 梧郎氏(フォトジャーナリスト)

元岐阜大学地域科学部教授

2000年~2004年「メディア論」「環境文化論」

演 題

「地球環境、どうしたらいいのか」

オンライン開催
 (Zoom配信)

パソコン・タブレット
 スマートフォンで
 視聴できます

参加費無料

事前申込制

先着200名 申込締切 9月25日(土)

申込方法

参加を希望される方は、2021年9月25日(土)までに、予約サイトからお申込みください。

予約に際して、①氏名(ふりがな) ②〒住所 ③電話番号 ④地域科学部同窓生 と一般の区別 ⑤メールアドレスの入力が必要となります。

開催日の1週間前をめどに、参加に必要な情報を記したメールを配信いたします。

森の会設立20周年記念講演会

専用予約サイト : <https://www.mwt-mice.com/events/morinokai20>



※変更等がある場合は、メールおよび森の会ホームページでお知らせします。
 ※森の会ホームページからもお申し込みできます。
 ※講演会の詳細は、同封のチラシをご覧ください。

森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)ホームページ
<http://www.rs.gifu-u.ac.jp/alumni.html>

2022年3月ご退職の先生方からのメッセージ

地域の中で生きる学部として、これからも

地域政策講座 ● とがし こういち 富樫 幸一 教授

岐阜に来て、34年になります。面接で初めて岐阜駅を降りた時は、当時はまだ元気だった柳ヶ瀬や問屋町をとりあえずは見て帰ろうといった感じでした。まさか、教養部から地域科学部になって、寂れていったこの町を実習などで調査しつづけて、まちづくりに関わっていくとは思いませんでした。

地域科学部をつくった当時は、「地域ってわからん」「まちづくりって何」とか言われてましたが、要は大学が地域に目が向いていなかったというだけで、「地方創生」などといわれて慌てて「**ビジョン」とかを出しているわけです。「経営学部」騒動もありましたが、実際に地元の企業を調査したり、政策づくりに携わってきた側からすれば、大学の教育や研究と現場との違いも分かるので、それぞれの役割、パートを担いながら、協力していけばいいわけです。

学生も最初の頃は、環境や福祉に関心が向いていましたが、今は地域科学部の志望やゼミの選択でも「まちづくり」という学生が多くなっています。なにも商店街の活性化や観光の振興だけではなくて、環境から、

さまざまなダイバーシティ、政治や文化までを学べる、今ならSDGsに沿っているのが地域科学部らしさになってきています。

「騒動」の中で、これほど多くの学生や市民のみなさん、全国の人たちが地域科学部を応援してくれたことはとてもうれしかったです。「あの子ども、この子ども地域の学生なのに」と。OG、OBが取材やメディアの記事で、しっかりと論じてくれたのもありがたかったし、ここで学んだクリティカルな分析や考察の力が生きていたのではないのでしょうか。学部の外部評価の際、卒業生が頑張っている郡上市の市長や、CCN前社長、地域学系の鳥取大学からのエールには感激しました。

「岐阜でプラタモリ」に出演して歩いていた時も、町の皆さんがこちらに声を掛けてくれて（タモさんが変な顔をしてた）、ネットで拡散していったのも、この町との関わりがあったからこそでしょうか。引退後も、岐阜の街にはいますので、またよろしく。



岐阜大学での29年

気がついたら定年になっていた。

最初、岐阜大に就職が決まったとき、岐阜市が岐阜県の最南端にあるとも知らず、勝手に飛騨高山地方を想像し、ずいぶん遠いところに行くことになったと思ったものである。しかしいざ来てみれば、名古屋とは目と鼻の先、ふるさとの東京から三時間半ほどで着ける。しかも来てみれば山紫水明、景色はいいし、そこそこ都会、酒はうまいし女性もなぜか美人が多い。これはいかん。猫に鯉節。

そのうち気を取り直して研究に勤しんだが、数年して新設学部に移籍することになった。地域科学部？中国古典文学と地域科学？接点を求めて考えてみた。もともと中国における歌枕＝詩跡研究をしていた関係から、中国文学における土地への視点、文学作品と地域との関わりというテーマに研究の軸を移し、以来幾つかの論考を発表した。地域研究は何も日本に限らなくても良からう。もしも普通の文系学部だったらこのような発想は生まれず、ただ単に詩歌の解釈論に終始していたかもしれない。そう考えると地域科学部への移

地域文化講座 ● まつ お ゆきただ 松尾 幸忠 教授

籍は、文化論的な視点へと視野を広げさせてくれたというよい結果を生んだと言えよう。ありがたいことである。また、学生諸君にせがまれて数回中国旅行に行った（行かされた？）が、これもよい思い出である。

しかし退職後は中国との関わりに終止符を打つことになろう。今の中国にかつての文化国家としての面影は全く見られず、その覇権主義的性格はあたかも日本帝国主義の再来を思わせるものがある。長い目で見れば国益に反することは明らかであり、そのような国に文化的な魅力など感じるはずもない。長く研究対象としてきた国の現状を見て悄然とさせられるとは想像だにできなかったことである。果たしてジョージオーウェルの『1984年』は現実化するのでしょうか。いつか中国が易姓革命と華夷思想の亡霊から解放され、生まれ変わることを心の片隅で祈ってはいる。それは「河清俟ち難し」なのかもしれないが。



未熟な大学教員でした

地域文化講座 ● いの お まさる 稲生 勝 教授



僕が赴任した当時の岐阜大学は、教養部の廃止は決まっておらず、新学部設置を目指す（地域科学部として実現）という動きのなかにあり、教養教育の全学体制移行が言われ、各学部の教員にも先行的に教養教育に参加してもらおうということで教養部の教員と各学部の教員で総合科目を実施しようということになっていました。その担当は僕でした。

岐阜大学の内部事情を全く知らないまま、工学部や農学部の先生方と交渉することになりました。そこで出会った工学部のT先生、農学部のF先生は、その後、非公式の場でも、たとえば、昼食やお茶を共にしてくださったりするようになり、そこで大学教育のありかたについて語ってくださりました。

両先生とも教育熱心で、その一つが単位の出し方がありました。例えば、F先生は、国立大学の講義は、同じ〇〇学の講義であれば、どこの大学も同じ基準で出さな

くてはならないと。実際、一発で通る学生は1割いなかったようです。両先生とも、単位を厳しくすることで少しでも学生に勉強させようとしていたようです。親しい工学部や農学部の学生に聞くと、「あれはいくら勉強しても無理！」と話していました。

その話を後に地域科学部学部長となる哲学の吉田千秋先生にすると、「哲学にとって試験は人生や」とおっしゃり、きびしい単位の出し方には批判的でした。吉田先生はきわめて甘いとの学生の評判でした。

さて、僕はどうするか。実は、定年間際になっても、いまだに決められません。あまりに安易に単位を出すのは社会に対して無責任のような気がしますし、そもそも成績をつけること自体にも疑問がありますし。毎回、迷っていますが、とりあえず、講義の内容を理解した形跡のない答案、レポートは不可とさせてもらってきました。

僕に単位を落とされた卒業生の方は、そんな未熟な状態で成績をつけていたのかとお怒りかもしれませんが、どうか、ご容赦ください。



差異と共通との間に

世界には様々な差異が存在していると同時に、人々には共通するところも色々あります。私の研究と関心は社会における他者の表象と待遇です。つまり、自己と違うと思われる人々や自文化がメディアや大衆文化によってどのように描かれ、それらの「違い」がどのように表象され、解釈され、理解されているのかということです。興味深いことに、他者と思われる人々には実存する違いもありますが、社会が根拠なく勝手に作りだした空想の産物を他者に押し付けている場合もあります。これらの違いが世代から世代へと伝播され、他者像の正体を明確にするというよりも、その社会や文化自体を物語っています。

私達は「グローバル化」された世界に住んでいて、他者よりも先に情報を得ることが社会を活性化すると信じられている時代に住んでいます。考えてみれば、多くの人々は実際に外国人とあったり、外国へ行ったりする

地域構造講座 ● ジョン・G・ラッセル 教授

前に既に諸外国の人々や外国の文化に関する先入観を持ち、自分の社会の情報によってそれらを「常識」として持っています。その伝播の媒体は様々ですが、家族、学校、本、映画、テレビなどという大衆文化を通して受け入れてしまいます。特に、この20年間、インターネットによる情報発信が良くも悪くも他者像作りと伝播に大きな影響力と役割を果たすようになってきました。

「知識が力」と良く言われますが、「情報操作が力」と言った方が的確かもしれません。情報操作により他者に対する意識、態度、待遇を操ることが可能となり、他者を受け入れるか、排除するかが左右されます。世界各地にヘイトスピーチやヘイトクライム、排斥運動、他者と思われた人間に対する意図的な誤報や暴力事件が絶え間なく溢れている21世紀の現状にこそ情報を適確に評価する批判意識を養うことが非常に重要な課題です。文化人類学は「異文化」を理解することが目的だと思われていますが、それと同時に自文化から受けている「常識」や他者像を再考する試みでもあります。

2020年4月ご着任の先生方からのメッセージ

文学にできることはまだあるか？ 地域文化講座 ● 平川 和 助教

2020年4月に着任した平川和と申します。専門はアメリカ文学です。私のセミナーでは、-アメリカの小説を原文(英語)で読みながら、アメリカの文化、社会、歴史について学んでいます。おそらく地域科学部に入学してくる人たちの中で、初めから文学をやりたいと入学してくる人はそれほど多くない気がします。多くの地域科学部生にとっては、文学は「謎の学問」なのではないでしょうか？中には、「文学なんて何の役に立つの?」と思っている人すらいるかもしれません。

はっきり言います。実用性や即効性という面から考えたら、文学はほとんど役に立ちません。文学を一生懸命学んでもお金をいっぱい稼げるようになるわけではないし、明日から実生活で役立つ知識を得られることも少ないでしょう。果たして、そんな文学を学ぶ価値なんてあるのでしょうか？

私も日々、文学を学ぶ意義について頭を悩ませているのですが、もしかしたら文学は「役に立たない」からこそ価値があるのかもしれません。この世の中では、「役に立つ」人やモノばかりが歓迎されがちです。確かに「役に立つ」

に越したことはありません。しかし、「役に立つ」人やモノばかりに絶対的な価値を置く社会とは、逆に、「役に立たない」人やモノを排除してしまう、そのような暴力性を孕んだ社会にもなり得るのではないのでしょうか？「役に立たない」人やモノは存在してはいけないのでしょうか？そもそも「役に立つ」とはどういうことなのでしょうか？

文学はしばしば、このような根本的な問いを立てることがあります。文学は、みんなが「いいね!」と思っていることに対し、「本当にいいのかな?」と疑いの目を向けたりします。ある意味、文学は空気を読みません。でも、そんなKYな文学だからこそ、世の中で生きづらさを抱えている少数の人たちに寄り添うことができるのかもしれません。だとすれば、文学にできることはまだあるのかもしれませんね。



歴史を学ぶということ

地域構造講座 ● 芹口 真結子 助教

2020年4月に地域科学部へ着任した芹口と申します。専門分野は日本近世史で、主に真宗教団を事例に教説の流布の様相や、教説をめぐる論争が社会に与えた影響について研究しています。赴任当初は住み慣れた関東地方からの転居という環境変化に加え、新型コロナウイルス感染症の流行によりオンライン授業を余儀なくされ、研究・教育両面で試行錯誤の日々が続きましたが、同僚の先生方に色々と教えていただいたことで、岐阜での生活を楽しく過ごせています。

教育面では、地域史や地域学実習、初年次セミナー、専門セミナーで、前近代の歴史についてレクチャーしています。実際に実物の古文書に触り、分厚いくずし字辞典を片手にお家流で書かれているくずし字の解説をしながら、過去に生きていた人々の意識・思想について、受講生とともに学んでいます。

歴史学は、様々な史資料を活用して過去の社会の構造を分析することにより、現代社会に生起する諸問題が、どのような歴史的過程のなかで生まれてきたのかを探ることができる学問です。新型コロナウイルス感染症は、様々な分

断を生むとともに、経済的格差やジェンダー格差を拡大させていますが、歴史を振り返れば、人類はコレラやスペイン風邪、ペストといった感染症の脅威に向き合い続けていたことがわかります。これを「疫病と闘い、克服してきた歴史」と理解するのではなく、疫病の被害をより強く受けるのはどのような人々なのか、疫病を契機として、社会はどのように変化してきたのか、という風に、多角的な視座から考えることが重要になります。

その際、必要となる能力が、史資料を批判的に読むこと(史料批判)です。書いてあることをそのまま事実として鵜呑みにしてしまうと、歴史的事実を見誤ることもつながりかねません。誰が、何を目的にその文書を作成したのかを考えながら注意深く読み込む能力は、より豊かな歴史像を描くことを可能にするとともに、玉石混淆の情報が氾濫する現代社会を生き抜く上でも必要なものであると考えています。



退職された先生のご紹介

2021年3月31日付

定年退職 林 正子 教授(地域文化講座 日本近代文学)

新しく着任された先生のご紹介

2021年4月1日付

採用 甲斐 智大 助教(地域政策講座 地理学)

会員だより

皆さんこんにちは。地域科学部11期生の山田一光です。早いもので卒業してから10年の月日が経ちました。

在学時は伊原ゼミに所属し、社会を広い視野で見渡す経験をさせて頂きました。

卒業後は食品商社→蔵人修行という少し変わった経験を積んで、現在は岐阜県八百津町で「玉柏」という銘柄を醸す家業の酒蔵を継いでいます。

酒蔵といっても地方の小企業。故に、酒を醸すことから始まり(最近では米作りも始めました)、販売、財務管理まで少人数のチームで取り組んでいます。そんな日々の中でも、醸したお酒が飲んだ方に「美味しい」と言って頂けることが何よりの喜びであり、私自身の原動力にもなっています。

また、ちょうど3年前、大学OBという事でお声がけ頂き、産官学連携の元「多望の春」という日本酒を造り、販売まで至りました。応用生物科学部の学生さんが採取した野生酵母、そして岐阜大学構内に移転した食品科学研究所開発の岐阜県酵母を組み合わせ、学生の皆さんと一緒に日本酒を造りました。岐阜大学とのご縁の

やまだ かずひこ
第11期生 山田 一光

賜物だと感じています。王道の本格的な味わいと新感覚な味わいが楽しめる二本立てとなっておりますので、「まだ味わった事がない」という方へも是非味わって頂きたい、この場をお借りし宣伝させて頂きます。

最後になりますが、地域科学部入学から今日まで同級生、先輩・後輩、先生方と実に多くの方々とのご縁に支えられここまで来ることができました。微力ながら、今後も地域の担い手としてお世話になった母校に貢献していけたらと思っています。



日本酒造りの様子

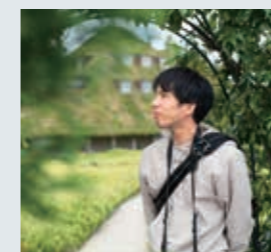


岐阜大学オリジナル日本酒「多望の春」

つだ こうへい
第16期生 津田 康平

わる時間は大変貴重なものでした。

その他、大学で身につけた諸々の中で、活用しているのはサークルで得た映像制作の知識でしょうか。卒業後は趣味の1つとして続けられれば十分と思っていましたが、覚えた技術が仕事でも役立ち、助かっています。顧問として環境を整えてくださった野原先生や、サークルを立ち上げてくださった先輩方には感謝してもしきれません。30歳も目前に迫ってきましたが、より深く・広く学ぶ姿勢を忘れずに日々を過ごそうと思います。



こんにちは。2016年度卒業生の津田康平と申します。卒業後は岐阜のケーブルテレビに就職したため、大学入学を機にやってきた岐阜での暮らしも10年目となりました。イベント運営のお手伝いや、

動画制作請負、近頃はライブ配信依頼などの仕事を担当し、忙しいながらも楽しく過ごしています。

在学中は、竹内先生のセミナーで社会哲学について学んでいました。毎週末、コーヒーを飲みながら文献をゆっくり読み込む時間が懐かしく感じます。地域科学部卒と話す時、大抵の場合イメージされるような、まちづくり・地域おこし等の講義は積極的に選択しなかったのですが、仕事を通して行政の方、地域の方との関わりが増えるにつれ、ふと大学の講義を思い出すことも増えています(余談・雑談として聞いたお話だったりもするのですが)。「地域」について学んだことが、今に活かしているのかもしれない。大量の本を読む時間、多彩な知識を持つ方と関



配信セッティング中の仕事道具など

会員だより

こんにちは。私は2019年度卒業生の神谷真希と申します。地域科学部では松尾先生のゼミにて中国の文化や歴史について学んでいました。幅広い分野の勉強ができる地域科学部だからこそ、自分の学びたい分野を見つけることが出来ました。また、松尾先生のゼミでも、寛大な松尾先生のおかげで特に興味の強い、中国と日本の歴史について研究をすることができ、とても充実した学生生活を送れました。今考えると、あれだけひとつのことに時間をかけて学ぶことが出来るのは学生時代にしか出来ないことだと思うので、自分の好きな事を追及できる地域科学部で本当に良かったと感じます。



今は結婚式場にてウエディングプランナーをしております。学生時代に学んだこととは直接関係の無いお仕事ではありますが、様々

第20期生 神谷 真希



なおお客様とお話する中で、地域科学部で学んだことを思い出す事もあり、4年間は無駄じゃなかったんだなあと感じます。

また、地域科学部で出会った友人とは今でも仲が良く、頻りに連絡をとったり、会ったりしています。コロナ禍で、新しい出逢いがなかなか生まれないうちで、学生時代の友人は私の中でとても大きな存在です。私は愛知県出身なのですが、岐阜で過ごした4年間は私にとってかけがえのない時間であり、私のもうひとつの故郷として、岐阜への愛が強まった時間でした。

岐阜大学地域科学部での4年間で学んだことや、出逢った友人やその他の人間関係を、これからも大切にしていきたいと思えます。松尾先生、地域科学部の先生方、本当にありがとうございました!

2020 年度会計報告

自 2020年4月1日 至 2021年3月31日

(単位：円、小文字は内訳)

収入の部	項目	決算額
●収入の部	会費 (10,000円×93名)	930,000
	懇親会費	0
	受取利息	564
	その他	0
	当期収入合計	930,564
	前年度繰越金	1,480,942
	収入合計	2,411,506

支出の部	項目	決算額
●支出の部	事業費	548,037
	会報等印刷費	243,712
	会報等郵送費	304,325
	卒業・修了祝会祝い金	0
	事務費	429,485
	人件費	362,295
	事務用品費	24,530
	通信費	35,192
	その他	7,468
	会議費	40,840
	諸会費	0
	役員会雑費	15,850
	交通費	24,990
	総会費 ※新型コロナウイルス感染症のため、総会・懇親会・設立20周年記念講演会は延期	0
	総会経費	0
	懇親会経費	0
	講演会	0
	予備費 ※新型コロナウイルス感染症緊急学生支援事業への寄附 (500,000) を含む	662,913
	当期支出合計	1,018,362
	当期予備費合計	662,913
	支出合計	1,681,275

●資産保管状況

項目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	2,411,506	1,681,275	730,231

項目	現在高
現金	0
普通預金	
十六銀行	730,231
ゆうちょ銀行	0
定期預金	
十六銀行	8,000,000
合計	8,730,231

進路状況 学部進路

2021年度卒業生進路状況(2021年5月1日現在:カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(32) 厚生労働省(2) 羽島市 国土交通省(2) 一宮市 総務省(2) 小牧市(2) 財務省 愛西市 岐阜県(3) 岡崎市(2) 愛知県 大府市 三重県 御嵩町 滋賀県 池田町 愛知県警察 揖斐川町 岐阜市(4) 大垣市(2) 瑞穂市	建設・製造業(15) (株)一条工務店 (株)住居時間(スマイルタイム) 積水ハウス(株) エスピー食品(株) (株)オリバー べんてる(株) 大豊製紙(株) 大鹿(株) ヨツハシ(株) (株)未来 シーシーアイ(株) (株)オンダ製作所 豊田鉄工(株) (株)サンコーテクノ 林テレンプ(株)	情報通信(12) (株)アイキューブ (株)ウイズシステム (株)セイノー情報サービス (株)ソフィア総合研究所 (株)トヨタシステムズ (株)リトルクリエイティブセンター NDSソリューション(株) 共立コンピュータサービス(株) 日本NCR(株) 日本ユニシス(株) 富士ネットワークス(株) (株)中日新聞社	金融・保険業(14) (株)十六銀行(3) (株)大垣共立銀行(2) (株)名古屋銀行 (株)ソフィア総合研究所 岐阜県信用保証協会(2) 信用組合愛知商銀 西尾信用金庫 大垣共立銀行 大垣西濃信用金庫 全国共済農業協同組合連合会岐阜県本部 東京海上日動火災保険(株)		
卸・小売業(6) (株)豊通マシナリー (株)クスのアオキ (株)リカーマウンテン (株)八神製作所 ゲンキー(株) 大創産業(株)	複合サービス業(3) あいち中央農業協同 西美濃農業協同組合 飛騨農業協同組合	運輸業(8) (株)ヒガシトゥエンティワン 中部国際空港旅客サービス(株) 東海旅客鉄道(株) 日本通運(株)(2) 濃飛西濃運輸 名鉄バス(株)(2)	サービス業(8) 愛知県弁護士会 税理士法人ネクストワン 大進精工(株) 土地家屋調査法人ファミリア 名南コンサルティングネットワーク (株)アウトソーシングテクノロジー (株)アドプランナー 大府商工会議所		
教育・医療・福祉業(4) (株)ツクイ SOMPOケア(株) 一般社団法人いきいきライフ協会 社会福祉法人いぶき福祉会	電気・ガス・水道業(1) (独)水資源機構	生活関連・娯楽・飲食・宿泊業(2) 吉本興業ホールディングス(株) 他1件	進学(5) 岐阜大学地域科学研究科(4) 横浜市立大学大学院		
卒業生数117 就職希望者数109 就職決定者数105				進学者数 5 進路未定者数 4 その他 3	就職率 96.33% (就職決定者数÷就職希望者数)

研究科進路 2020年度修了生進路状況(2021年5月1日現在:カッコ内は人数で1名の場合は省略)

卸・小売業(2) マックスバリュ東海(株) 西日本貿易(株)	修了生数16 就職希望者数 2 就職決定者数 2 進学者数 1 進路未定者数 0 その他 ※113	就職率100.00% (就職決定者数÷就職希望者数)
進学(1) 大阪大学大学院言語文化研究科	※1 社会人修了生を含む	

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

地域科学部及び地域科学研究科が更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献する責務を果たすために、ご寄附をお願いします。

この基金による支援事業は、1. 学生に対する学術交流協定校への留学支援、2. 教育研究活動に対する支援、3. 産学官連携及び社会貢献活動に対する支援、4. キャンパスの環境整備・充実に対する支援等としております。多くの皆様のご協力により、本学部・研究科の教育研究活動を支援し、もって地域社会の発展に貢献しうる学生を養成するために本基金を活用させて頂きたく存じます。つきましては、皆様には本趣旨をご理解の上、格別のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

URL : <http://www.rs.gifu-u.ac.jp/newsttopics/2020/11/13/post-61.html>

岐阜大学地域科学部 学部長 洞澤 伸